



Q

扁桃へんとうににおいの出る
白い粘液がたまり口臭が気になる

51歳、男性。若いころよりのどが弱く、よく扁桃腺へんとうせんが腫はれます。扁桃のあたりに白い粘液がたまり、においがあって口臭が気になります。耳鼻咽喉科で「膿栓のうせん」といわれ、外用のうがい薬で頻繁にうがいをしていますがよくなりません。改善方法を教えてください。
(岩手県 M)

A
専用の器具で膿栓の吸引や陰窩いんかの洗浄を行う。
根本的な解決には、扁桃摘出手術を

扁桃腺（正確には「口蓋扁桃」あるいは単に「扁桃」）は口の奥の両側にあつて、アーモンドのような形をした親指大のリンパ組織の塊で、のどの粘膜の中に埋まっています。扁桃の表面には陰窩いんかあるいは腺窩せんかと呼ばれる10〜20個の小さい穴「扁桃小窩」が開いており、扁桃全体として表面積が大きくなることで、細菌を効率的に殺せるような構造になっています。

陰窩の奥には、古くなつてはがれた扁桃の粘膜上皮や細菌の死骸と食べ物のカスなどが塊かたまりになった「膿栓」がたまつてきます。また陰窩には膿栓だけではなく、固まつていない分泌物「膿汁のうじゅう」も一緒に存在します。

膿栓や膿汁には老廃物とそれを栄養源にして口腔常在菌が増殖しているため、生ゴミの腐つたような独特のにおいがして、口臭の原因にもなります。

膿栓は、ちよつと見ただけでは、あるのかわからないことがほとんどです。耳鼻咽喉科では、内視鏡を用いることで、埋没型の扁桃（写真①）であっても、陰窩に貯留する膿栓（写真②）を観察することができます。扁桃の陰窩の開口部が閉塞して奥が見えていないような場合でも、洗浄や吸引によって膿栓や膿汁の流出を直接証明することもできます。

扁桃の膿栓症の治療についてですが、健康な人でも膿栓は普通によくあることで、健康上は何ら問題ありません。膿栓による口臭が気になるのか、のどの違和感がつづくような場合は治療の対象になります。

うがいで膿栓は取れませんが、耳鼻咽喉科の治療としては、専用の器具で膿栓の吸引や陰窩の洗浄といった扁桃処置を行います。

一時的に膿栓や膿汁が除去されることにより不快感は改善しますが、1回の処置で陰窩のすべてがきれいに洗浄できるわけではないので、たまれば何度でもくり返して行います。根本的な解決方法は扁桃摘出手術を行つて、完全に扁桃をなくすしかありません。一般的に扁桃摘出手術の適応とされるのは、かぜをひくたびに高熱やのどの痛みをくり返す、扁桃周囲膿瘍のうようなどの重症化をおこしやすい、腎炎など他臓器に悪影響を及ぼす扁桃病巣感染がある、いびきや睡眠時無呼吸症候群の原因になつている場合などです。

◆陰窩に貯留する膿栓



肉眼ではわかりづらい埋没型の口蓋扁桃（写真①）でも、内視鏡を用いることで、陰窩に貯留する膿栓を見ることができる（写真②）。耳鼻咽喉科では、陰窩にたまっている膿栓を、専用の器具で吸引したり、陰窩の洗浄を行つて除去する。